

## 第二回フィールドリサーチ・セミナー

# 「医療を分析する」

日時：6月2日（月）13:00～16:00

会場：熊本大学黒髪北キャンパス・くすのき会館レセプションルーム

多くの方が健康に志向するこんにち、医療は私たちの生活において最も重要な領域のひとつといえます。そしてそれは、その中心に医療関係者と患者のやりとり——相互行為——をもち、人文社会科学的にも、きわめて興味深い現象のひとつです。第二回フィールドリサーチ・セミナーは、医療を分析するにあたって、相互行為に着目し、その精緻な分析を行ってきた社会学的方法について紹介します。そして、その具体的な分析方法と医療研究の意義について、実際の相互行為の映像や音声の記録などから論じるとともに、医療がどのような現象であり領域であるのかについても考えてみたいと思います。

### プログラム

1. 檜田美雄（徳島大学総合科学部：医療社会学・エスノメソドロジー）  
「医療における相互行為秩序の分析：ビデオエスノグラフィーの試み」
2. 林田康子（都城看護専門学校：医療社会学・ディスコース分析）  
「精神医療における援助：作業療法として」
3. 佐藤哲彦（熊本大学文学部：医療社会学・犯罪社会学・ディスコース分析）  
「医学的記述と刑事学的記述のあいだ」

### 話者紹介

- ・ 檜田美雄氏：徳島大学准教授、日本保健医療社会学会理事。医療や医学教育に関する会話分析を中心に研究。「エスノメソドロジー・会話分析からみた医師と患者の会話」「弱者の抵抗の非個人能力主義的解釈—論理的達成と会話的達成」などの研究業績や、D・メイナード『医療現場の会話分析』（勁草書房）などの訳書がある。
- ・ 林田康子氏：都城看護専門学校講師、博士（学術）。精神医療を中心に研究。「精神科作業療法における能力と援助の関係について」（2008年度日本保健医療社会学会学術奨励賞受賞）「精神科デイケアにおける医療的判断の成立過程について」などの研究業績がある。
- ・ 佐藤哲彦氏：熊本大学教授、博士（文学）。薬物使用者や薬物政策を中心に研究。『覚醒剤の社会史—ドラッグ・ディスコース・統治技術』（東信堂、2007年度日本社会病理学会学術奨励賞受賞）「薬物政策における医療的処遇について」などの研究業績がある。

主催：熊本大学大学院社会文化科学研究科フィールドリサーチ研究コース・領域